

吐爾扈特の渥巴錫所部凡そ三萬餘戸、人口十六萬餘を率ゐ、昨冬以來本年の夏に及び、始めて露領より、伊犁に入る。蓋し露國嚴令を發して、其の宗教を基督教に改めしめんとせしに因り。深く露を恨み、故國を慕ふの情に堪へず。遂に擧て清國に復歸すべきに決し、道を哈薩克部に假らんとするも拒まれ、布魯特部に取らんとするも亦拒まる。渥巴錫進退維れ谷り、已むを得ず戈壁の地に出づ、水草を斷つこと旬日牛馬の血を啜りて饑渴を凌ぎ、人畜死亡するもの大半、其の伊犁に達せし時は漸く七萬餘口に過ぎざりしと。清廷依て渥巴錫を封して汗と爲し、喀喇沙爾の地に游牧せしめ、著勒都斯を主庭の地となさしむ。

烏什、昌吉の變後、清廷は官吏精選の法を嚴にし、命令堅く行はれて、新疆全部五六年間の安泰を保ちたり。然るに嘉慶二十五年(千八百)張格爾の亂あり。是より先き、大湖查布那敦の子薩木克、巴達克山の圍を脱し、諸方を流寓しつゝ、竊に其の父の事業を回復せんことを謀るも成らず。乃ち浩罕に匿れて機のを待つ。清廷之を知り、浩罕王鄂瑪爾に命じ、薩木克を看守せしむ。薩木克爲めに遂に其志を得ざりき。薩木克死するの後、其の次子張格爾、又父の志を繼ぎて時を伺へり。時